

北海道リハ支援センターの活動状況

-第4報-

~ 補助金終了の広域支援センターの状況と
支援センターの新たな取り組み ~

北海道リハビリテーション支援センター

(社)北海道総合在宅ケア事業団
岡田しげひこ(理学療法士)、菊地啓介(作業療法士)

札幌医科大学
石合純夫(医師)、坪田貞子(作業療法士)

目的

北海道リハビリテーション支援センター（以下、支援センター）は、平成18年度までに立ち上がった18圏域の地域リハビリテーション広域支援センター（以下、広域支援センター）への協力・支援活動を行っている。

補助金終了の広域支援センターの状況

支援センターの新たな取り組み

北海道独自の地域リハ広域支援センター

地域リハ広域支援センター <地域リハビリ推進会議>

構成：医師会・歯科医師会
理学療法士会・作業療法士会
言語聴覚士会・看護協会・他
協力病院、市町村 等

事務局：リハビリ実施医療機関

理事会

運営委員会

講師バンク

地域懇談会

支援
相談

保健所

支援
相談

市町村，介護老人保健施設，訪問看護
ステーション，病院・診療所，在宅介
護支援センター，介護特別老人ホーム，
デイケア施設，療養型病床群，他

支援
相談

住民

患者の会
家族の会
ボランティアグループ

補助費終了となった広域支援センター



平成14年度

上川中部
南渡島
十勝
北網

平成15年度

西胆振
東胆振
南空知
釧路

平成16年度

上川北部
宗谷
北渡島檜山
後志
富良野

平成17年度

中空知
北空知
日高

平成18年度

根室
石狩

平成20年度

設置予定

南渡島
留萌
遠紋

補助金終了の4圏域の活動状況(1)

<平成19年度研修会開催予定は?>

〔予定回数〕2回〔2圏域〕・1回〔2圏域〕

〔研修内容〕地域連携(67%)・知識習得(33%)

地域連携

「新地域医療計画と必要な取り組み」
「地域連携パス(仮題)」
「地域連携のメリット」
脳卒中患者の在宅医療に関するテーマ(予定)
「寝たきりにならないために(仮題)」
「摂食・嚥下リハビリ」

知識習得

補助金終了の4圏域の活動状況(2)

<研修会以外の活動予定は?>

地域懇談会の開催 [3 圏域]

講師バンクの設置・講師の派遣 [4 圏域]

流れづくり部会(月1回)・新聞発行 [1 圏域]

地域連携パス、地域連携体制構築の調査・研究 [1 圏域]

地域連携パスの検討を重ね、医師会に協力を呼びかけようと考えている。

65歳未満の脳卒中患者の実態把握・課題分析 [1 圏域]

保健所の生活習慣改善等サポートシステム事業の運用

補助金終了の4圏域の活動状況(3)

<運営費は?>

<収入見込み> 498,000円 ~ 0円

年会費 [3 圏域] 研修会 [1 圏域] 講師派遣 [1 圏域]

<年会費内訳>

構成団体、協力病院、その他の病院等 (5 万 ~ 1 万円)

構成団体等 (5 万 ~ 3 千円)

正会員、賛助会員、個人、自治体会員 (1 万円 ~ 0 円)

<支出見込み> 498,000円 ~ 0円

○委員会活動 [3 圏域] ○研修会 [2 圏域] ○講師派遣 [1 圏域]
○総会・理事会 [1 圏域]

支援センターの新たな取り組み

補助金終了圏域の活動状況の調査と情報周知

「医療・福祉・保健の連携づくり」への支援

地域ニーズを知るためのグループワーク
急性期・回復期・維持期の連携方法
（リハマップ、共通言語、地域連携パス 等）
急性期から維持期までの縦断的「事例検討」

広域支援センター未配置3圏域の調査

まとめ

<補助金終了の4圏域の活動状況>

○研修会：全圏域で実施予定で、その内容は主に地域連携に関するものであった。

○研修会以外：地域懇談会・講師派遣の他に、地域連携パスの調査・研究などを実施し、医師会に協力を求めることなどがあった。

○運営費：年会費を主な収入源とし、主な支出は委員会運営であった。1圏域は、運営費なしであった。

<支援センターの新たな取り組み>

補助金終了圏域の活動状況の調査と情報周知

○<医療・福祉・保健の連携づくり>への支援
広域支援センター未配置3圏域の調査